



筑波大学
University of Tsukuba

Tsukuba Communications

vol.3

2 巻頭特集 新役員の紹介

6 対談 大学改革を語る
「教学と運営の質をどう高めるか」

清成忠男氏 法政大学学事顧問
(法政大学元総長・理事長)

×吉武博通 大学研究センター長
(前理事・副学長)

12 特集 平成21年度予算

14 学内組織紹介 農林技術センター

16 附属学校紹介 附属中学校

18 TSUKUBA SPORTS 男子バレーボール部

20 TSUKUBA ART & CULTURE 無絃塾

22 TOPICS 卒業式／表彰／受賞／入学式

26 羽ばたくOB&OG 石原恒和氏

28 リレーエッセイ

30 新聞記事掲載一覧

31 イベントカレンダー

平成21年度 国立大学法人筑波大学役員

役職名	氏名(前職)
学長	山田 信博 (理事・附属病院長)
理事 兼副学長 (教育担当)	清水 一彦 (人間総合科学研究科長)
理事 兼副学長 (研究担当)	赤平 昌文 (数理物質科学研究科長)
理事 兼副学長 (国際担当)	塩尻 和子 (特任教授)
理事 兼副学長 (財務・施設担当)	田中 敏 (理事・副学長)
理事 兼副学長 (総務・人事担当)	鈴木 久敏 (ビジネス科学研究科教授 大学研究センター長)
理事 兼附属病院長	五十嵐徹也 (人間総合科学研究科教授 副病院長)
理事 兼附属学校教育局教育長	阿部 生雄 (人間総合科学研究科教授 (体育科学専攻))
理事 (非常勤)	岸 輝雄 (理事 (非常勤) (独)物質材料研究機構理事長)
副学長 (企画評価・情報担当)	宇川 彰 (数理物質科学研究科教授 学長特別補佐)
副学長 (学生担当)	西川 潔 (人間総合科学研究科教授 芸術専門学群長)
監事	合志 陽一 (監事)
監事 (非常勤)	吉井 毅 (監事 (非常勤))

新役員の紹介

①生年月日 ②専門分野 ③最終学歴 ④主な職歴 ⑤座右の銘 ⑥趣味 ⑦本学の好きなおところ ⑧就任にあたっての抱負



学長

やま だ のぶ ひろ
山田 信博

- ①1951年12月5日
- ②内科学
- ③1976年 東京大学 医学部卒業
- ④1986年 東京大学医学部 第三内科 助手・講師・助教授
1999年 筑波大学臨床医学系(内分泌代謝学)教授
2003年 // 附属病院副病院長(～2007年)
2004年 // 人間総合科学研究科教授
2007年 // 理事・附属病院長
- ⑤緊張と弛緩
- ⑥オペラ、映画、ゴルフ
- ⑦自然あふれるキャンパス、フロンティア精神
- ⑧質の高い教育・研究を展開できるような環境作りに努め、世界に開かれた大学として、国際競争力のある、存在感のある拠点大学へさらに発展させたいと考えています。グローバル化の中で、世界は多くの解決困難な諸問題を抱えています。これらの問題解決に挑戦し、自立して国際的に活躍できる心豊かな人材を育成したいと思います。



理事兼副学長(教育)
しみず かずひこ
清水 一彦

- ①1952年1月20日 ②教育制度学
- ③1980年 筑波大学大学院博士課程教育学研究科 単位取得退学
- ④1983年 清泉女学院短期大学講師
1988年 筑波大学教育学系講師
1999年 // // 教授
2007年 // 大学院人間総合科学研究科長
- ⑤風林火山(疾如風・徐如林・侵掠如火・不動如山) ⑥ガーデニング(山梨)とゴルフ(筑波)
- ⑦とことん面倒見のいい教育風土と平坦な道
- ⑧何ものにも拘束されずに教える者と彼のもとに来る常連学習者との間に生まれた研究と学習の自由な共同体としての大学の原点を理想にしつつ、学生本位に立った教育プログラムづくりや教職員が本来の教育研究や業務に専念できるような教育環境づくりに力点を置き、「協働」と「敬愛」の精神で世界水準の教育の実現を目指します。



理事兼副学長(研究)
あかひら まさふみ
赤平 昌文

- ①1945年12月10日 ②数理統計学
- ③1971年 早稲田大学大学院理工学研究科(数学専攻) 修士課程修了
- ④1978年 電気通信大学電気通信学部助教授
1987年 筑波大学数学系教授
2007年 // 大学院数理物質科学研究科長
- ⑤継続は力なり
- ⑥美術鑑賞
- ⑦若葉が萌える春と紅葉に染まる秋の風情
- ⑧国内的にも国際的にも高く評価される大学に進化できるような研究体制に整備し、貴重な研究時間を確保するために教職員の協力を得て、省力化に努めます。また、筑波研究学園都市にある研究機関等の連携を拡大するとともに実質的な成果が得られるような協力体制の構築を目指し、さらに外部資金の獲得に向けても努力します。



理事兼副学長(国際)
しおじら かずこ
塩尻 和子

- ①1944年4月18日 ②宗教学、比較宗教学、イスラーム思想
- ③1989年 東京大学大学院人文科学研究科(宗教学宗教学専攻) 博士課程単位取得退学
- ④1999年 筑波大学哲学・思想学系助教授
2005年 // 大学院人文社会科学系研究科教授
2007年 // 北アフリカ研究センター長
2008年 // 特任教授
- ⑤焦らずめげず諦めず ⑥料理、洋裁、カメラ
- ⑦緑豊かで樹木が多いこと、泰山木が好き
- ⑧筑波大学の秩序ある学問研究の環境は、世界的にみても大いに誇れる長所だと思うが、これに満足することなく、21世紀を担う若い人たちが、さらに世界的先端的な幅広い教育を受けることができ、世界に貢献できる斬新で高度な研究が行えるように、実質的で有益な国際化を進めるために働きたいと思います。どうかよろしく願いいたします。



理事兼副学長(財務・施設)
たなか さとし
田中 敏

- ①1954年9月6日
- ③1980年 東京大学大学院理学系研究科 生物化学専門修士課程修了
- ④1980年 科学技術庁計画局計画課
2001年 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長
2007年 // 大臣官房審議官(スポーツ・青少年局担当)
2008年 筑波大学理事兼副学長
- ⑤think big ⑥スポーツ観戦(応援)、読書
- ⑦広い敷地と秘めた可能性
- ⑧「どうすれば良いのか」よりも、「何をすべきか」を考え、本学から次代を担う強くたくましい人材が多く育っていけるよう効果的で効率的な資源配分に努めていきたいと思っています。また、老朽化・狭隘化が進む施設・設備への対応が急務で、特に、学生宿舍問題等には早急に取り組んでいきます。



理事兼副学長（総務・人事）

鈴木 久敏

- ①1948年1月7日
- ②経営科学、オペレーションズ・リサーチ、数理計画法、ロジスティクス、ビジネスゲーム、OR教育
- ③1976年 東京工業大学大学院博士課程 経営工学専攻
- ④1988年 筑波大学社会工学系教授
2001年 // ビジネス科学研究科長
2002年 // 企画調査室長
2006年 // 大学研究センター長
- ⑤逆境は人を賢明にする ⑥コントラクトブリッジ、アイススケート
- ⑦学生や教職員の真面目さと進取の気風
- ⑧教育研究現場の自由な発想に基づく諸活動が大学を発展させる基礎だと考えています。そのため、現場との対話に努め、それぞれの活動を支える大学運営を心掛けたいと思います。また、筑波大学は「人が育つ大学」として、学生、生徒、教員、職員などすべての方が、日々、自己の成長を実感できる大学でありたいと思います。



理事兼附属病院長

五十嵐 徹也

- ①1947年9月26日 ②内分泌代謝・医療情報・病院管理
- ③1973年 東京大学医学部医学科卒業
- ④1980年 東京大学医学部 第4内科 助手・講師・助教授
2002年 筑波大学臨床医学系医療情報学教授
2004年 // 人間総合科学研究科教授
// 附属病院副院長
- ⑤Never too late
- ⑥クラシック音楽、マラソン、スキー
- ⑦自然と文化のマッチ、発展のポテンシャル
- ⑧つくばの地域と、この地にある国立大学の附属病院という優れた両ポテンシャルを最大限に発揮して、医療および医学の教育・研究開発ならびに人々への貢献に関わる幅広い学内外のステークホルダーを参画させた、持続発展可能な我が国の医療モデルを創出したいと考えています。



理事兼附属学校教育局教育長

阿部 生雄

- ①1945年8月23日 ②イギリス体育・スポーツ史、比較スポーツ史
- ③1972年 東京教育大学大学院教育学研究科 修士課程修了
- ④1975年 宇都宮大学教養部講師
1984年 筑波大学体育科学系助教授
1996年 // // 教授
2003年 // 附属中学校長（～2008年）
- ⑤不可勝（孫子に出てくる言葉） ⑥読書、テニス
- ⑦欧米の大学に劣らない学問環境と自然環境
- ⑧筑波大学全附属学校の11校（普通附属6校、特別支援5校）の国際化を促進しつつ、国内における先導的な教育実践と先進的な教育提言を発信して行きます。重点的な教育方針としては、①先導的教育拠点、②教師教育拠点、③国際教育拠点の実現をめざします。国内における附属教育の意義を確定し、先導的モデルを構築します。



理事（非常勤）

岸 輝雄

- ①1939年9月16日 ②材料（金属、セラミックス、複合材料、スマート材料）、破壊・非破壊評価
- ③1969年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
- ④1969年 東京大学助手
1997年 通商産業省工業技術院産業技術融合領域研究所所長
2001年 独立行政法人 物質・材料研究機構 理事長
2003年 日本学術会議副会長（～2005年）
2004年 筑波大学理事（非常勤）
- ⑤モットー：明日を創る ⑥広く音（音楽）を聴くこと。ゴルフ少々
- ⑧大学への期待：教育に関しては、学部レベルではリベラルアーツ（高等一般教養）を十分に配慮し、女性、そして外国人の割合を増やすべきです。研究については、筑波サイエンス都市の中核として、国および民間の研究所を取り組んだ独特のシステムを構築してほしい。イノベーションも重要だが筑波大学はやはりサイエンス中心の尊敬される大学が目指す方向です。



副学長（企画評価・情報）

う かわ あきら
宇川 彰

- ①1949年4月15日 ②素粒子物理学(理論)
- ③1976年 東京大学大学院理学系研究科 博士課程
- ④1981年 東京大学原子核研究所助教授
1984年 筑波大学物理学系助教授
1990年 // // 教授
2007年 // // 学長特別補佐
- ⑤入念に準備をし、決してあきらめないこと ⑥テニス・読書・音楽
- ⑦分野を超えた研究を可能とする校風
- ⑧大学は、人類を支える知の潮流を創造しそれを世代を超えて伝えていく機関であり、学生教職員とともに日々成長していく組織です。100年以上の歴史と伝統を自然豊かなつくばの地で受け継ぐ本学が、学際的な学術と教育という優れた特色をさらに発展させ、世界の人々の集う大学へと成長するよう努力したいと思ひます。



副学長（学生）

にし かわ きよし
西川 潔

- ①1946年5月27日 ②視覚伝達デザイン
- ③1971年 東京教育大学大学院教育学研究科 修士課程修了
- ④1977年 東京教育大学教育学部助手
1996年 筑波大学芸術学系教授
2002年 // // 芸術学系長
2004年 // // 芸術専門学群長
- ⑥旅行
- ⑦知的で真摯な校風、好きな景色は体芸地区南
- ⑧これまで芸術学系長や群長をつとめてきましたので、全学的な視座から、学生の支援をどのようにすべきかはこれから勉強です。しかし、本学の学生支援は全国のリーダー的存在と承知しています。その質を一層高め、留学生、障害学生など、すべての学生が安全で充実した学生生活を送れる環境づくりが私の仕事と考えています。



監事

ごう し よう いち
合志 陽一

- ①1937年5月9日 ②工業分析化学
- ③1961年 東京大学工学部応用化学科卒業
- ④1961年 (株)東芝中央研究所採用
1981年 東京大学工学部教授
2001年 (独)国立環境研究所理事長
2006年 筑波大学監事
- ⑤見逃さない、放置しない、慌てない ⑥雑多な読書と家事手伝い程度で無趣味に近い
- ⑦教育ベースの多様な研究と緑のキャンパス
- ⑧筑波大学のような大規模大学の全ての健全性を見るのは大変難しいのですが、学生時代や会社での開発研究、大学での基礎研究や管理業務、さらに国立研究所での役員などでの経験を少しでも生かして、筑波大学のアクティビティー向上にお役に立てれば嬉しいと思っています。しかし何よりも現実重視が重要でしょう。



監事（非常勤）

よし い たけし
吉井 毅

- ①1937年10月10日
- ③1960年 東京大学経済学部卒業
- ④1960年 富士製鐵(株)(現、新日本製鐵(株))入社
2000年 新日本製鐵(株)常任監査役
2004年 // // 常任顧問
2006年 筑波大学監事(非常勤)
- ⑤相手の身になって
- ⑥ゴルフ、囲碁
- ⑦自由な雰囲気
- ⑧早いもので非常勤監事を拝命して、6年目に入ります。新種の筑波苔が体中に密生してきていますが、残りの任期、精一杯皆さんに嫌がられることを言っていきたいと考えています。



対談

大学改革を語る

「教学と経営の質をどう高めるか」

清成 忠男氏 法政大学学事顧問 × 吉武 博通 大学研究センター長

(法政大学元総長・理事長)

(前理事・副学長)

大学の質の保証に関する 日独ワークショップに参加して

吉武 清成先生には大学トップマネジメント会議などを通していろいろと教をいただいておりますが、先生と最初にお会いしたのは2006年6月にベルリンで開かれた大学の質の保証に関する日独ワークショップでした。

清成 出席してどのような印象を持たれましたか。

吉武 日本側は清成先生と私の他に、大学評価・学位授与機構、大学基準協会などが出席、ドイツ側は大学評価機関AQUIN、大学学長会議、ドイツ経営者連盟、複数の大学が出席しましたが、ドイツの方が様々な立場の人たちが出席していたからかもしれませんが、議論が錯綜していたように思いました。日本の方が進んでいるんじゃないかという印象も持ちました。

清成 私は大学基準協会の会長をしていたところに、ドイツのいくつかの評価機関を訪ねたこともあり、評価システムについて事前によく知っていました。それに加えて、ドイツ人の表現様式がわかっていたから違和感なく話を聞けたんです。もともとドイツ経済史を専門にしている、19世紀の文献を読んでいました。ところが概念がよくわからない。内容を理解するためには小説や詩を読み、ことわざなどを知る必要があると感じ、それらを通して概念の理解をしていったんです。同じような経験をしたのが一橋大学の学長を務めた阿部謹也先生で、「中世を旅する人びと」に代表される彼の学風もそうやって作られていったんです。

吉武 とても興味深い話ですね。私も阿部謹也先生の書かれたものをいくつか読みましたが、清成先生と阿部先生がそういう形でつながっていたことは初めて知りました。

清成 評価のことに話を戻すと、ドイツの場合、評価を義務づけたといっても教学面だけで経営面はノータッチ。大学の本来の事業は教育研究である、しかしそれを支えるのは法人経営だろう、だから法人経営も含めて評価していく必要がある、そういう問題意識がドイツでも沸き起こって、あのようなワークショップになったんですね。

経営学部長と徹夜で議論した10年計画

吉武 私は十分に背景を理解することなく出席して、自身の考え方を発表してきましたが、もう少し勉強しておくべきでしたね(笑)。ところで、清成先生は法政大学の総長・理事長を9年も務められ、法政を大きく躍進させました。その後も日本の大学改革に関する議論を

ドしておられる。研究者としても多くの業績をあげておられる先生がどのような経緯で大学運営に関わるようになったのか、一度聞いてみたかったです。

清成 大学では一定の年齢や経験を有するようになると学部長などいろいろな職に就けと言われますよね。私は大学行政などの仕事が好きではなく敬遠していました。教授会でも下手に発言すると仕事が回ってくるので発言しないようにしていました(笑)。法政の場合、学部長の下に教授会をオーガナイズする教授会主任という役職があり、学部長には学部間の折衝・調整や全学的な視点からの発言ということが主に期待されていました。1982年に当時の経営学部長から頼まれて教授会主任を引き受けるのですが、その学部長が先見の明のある人で、「10年後の1992年が18歳人口のピークとなり、その後急減期に入る。そうすると成人に対するリカレント教育が大事になるはずだ。だから1992年にビジネススクールを開講したい」と言い出した。その学部長と2人でほとんど徹夜で議論し、学部の10年計画を立てました。全学的な提案をしても通らないだろう、だったら、自分の学部だけでも変えようよ、ということになった訳です。

吉武 すごく興味深い話ですね。

清成 その学部長は岡本秀昭という京都大学の哲学科で社会学を学んだ人なのですが、この人は大した人でした。たぶん産学連携の時代がくるだろう、そのような予測を2人でして、5年後に産学連携の足掛かりとなるような研究所を作ること考えました。それに備えて産業界との関係をつけておこうと考え、共同でシンポジウムをやることにしました。一年目は自動車、二年目は電機という形で続けていきました。その途中で私は経営学部長になりましたが、ある時、経団連が貴重な資料を持っているがどこかの大学で引き受けてくれないかという話が持ち上がり、法政が引き受けることになりました。そうして出来たのが産業情報センター(現在のイノベーション・マネジメント研究センター)です。そのセンターをベースに様々な講座を開きました。それを通して銀行、証券、シンクタンクなどとネットワークができ、それ



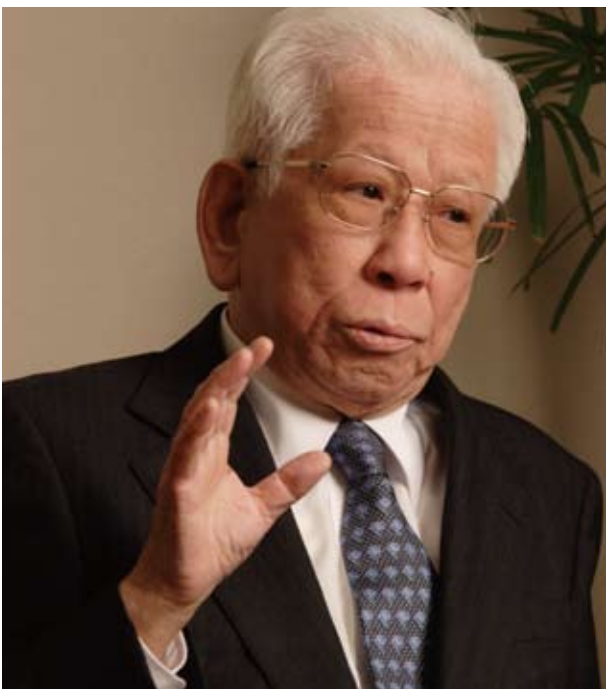
が経営大学院の準備になった訳です。

吉武 筑波大学は夜間の社会人大学院の先駆けといわれていますが、法政の経営大学院もそのような先見性や周到な準備の上に作られたんですね。

清成 そのように講座類を多くやったことが文部省の目に付いたようで、1990年に生涯学習審議会のヒアリングを受け、高等教育機関が生涯学習にどのような貢献ができるかについて、法政の事例を話しました。それを機に私もその審議会の委員になりましたが、このような機運が高まっている時がチャンスだと思い、1992年4月に夜間開講の経営大学院をスタートさせました。当時どこにもなかった起業家養成コースも設けました。

吉武 岡本学部長と立てた計画通りに研究所ができ、経営大学院ができた訳ですね。そのプロセスの中で清成先生ご自身が得たものは何ですか。

清成 これらの仕事を実際にやってくれたのは馬力のある若手教員ですし、頑張る職員がいないと全然進まないことも分かりました。年長の教員や古手の部長をどう説得するかという交渉力も身につきました。個人的に動くというよりも組織的に動く、そのことを経験した訳です。



きよなり ただ お
清成 忠男氏 法政大学学事顧問

1933年2月 東京生まれ

1956年3月 東京大学経済学部卒業

1973年4月 法政大学経営学部教授（～2003年3月）

1986年4月 // 経営学部長（～1988年3月）

1996年6月 // 総長・理事長（～2005年3月）

2005年4月 // 学事顧問

（社）日本私立大学連盟副会長、（財）大学基準協会会長、
大学設置・学校法人審議会特別委員、中央教育審議会専門委員（大学分科会）等
歴任

総長就任と同時に4学部構想を掲げる

吉武 学校法人の経営や大学全体のことはどうやって理解し、どういう経緯でそれらと関わるようになったのですか。

清成 夜間の経営大学院というのは学内に前例がない訳ですから、職員の配置や手当の問題、教室の確保など全学的な制度を理解していないと体制整備ができません。また、学校法人は理事会に対する諮問機関として評議員会を設置していますが、経営学部長は評議員会の下に置かれた予算委員会の委員長をやり、決算委員会の副委員長をやらされる。学校法人会計や経営分析に精通せざるを得なくなる。そうやって大学行政に深く関わっていくことになったんです。

吉武 法政大学はもともと伝統も実績もある大学ですが、近年さらに大きく躍進したという印象がありますし、それは清成先生のリーダーシップだといわれています。先生が総長・理事長として力を入られたことはどのようなことだったのですか。

清成 それまでの法政は立ち遅れていたんです。先に進んでいる大学にいかにかッチアップするかということが一番の課題でした。80年代の18歳人口急増期に早稲田でも慶応でもみな新しい学部を作るとか郊外に展開するとか、積極的な手を打っていました。法政の場合も新しい学部の設置を3回申請したのですが、3回とも学内の合意が得られずに取り下げているんです。その背景には学内の対立がありました。多摩キャンパスをつくり、経済学部と社会学部を移転させた時に、市ヶ谷にある教養部から教員を引き抜いていったために経済学部・社会学部と教養部との間に感情的な亀裂が生じてしまいました。

吉武 大変難しい状況だったといろいろな方々から聞いていましたが、それをどのようにして乗り越えていかれたのですか。

清成 このような学内事情のために18歳人口が急増している時に何もできなかったという反省、その間に社会的ニーズも変わったのだから新しい学部をつくるべきだという考え方、教養教育を生かしながらの教養部の改組・転換の必要性などを踏まえながら、総長になるときに4学部を新設する構想を打ち出しました。4学部なんてできるはずがないというのが大方の見方でしたが、市ヶ谷、多摩、小金井の3キャンパスに一ずつつければ反対はできない、市ヶ谷には第一教養部と第二教養部の2つがあるから、計4つの学部をつくれればいい、そう考えました。

吉武 反対はないとしても、4学部をつくるとなると財政的な問題を含めて大変な事業になります。その辺は大丈夫だったのでしょうか。

清成 幸いにも財務担当理事が財政をきちんと締めてくれたので4学部をつくる財政的余力はありました。また、学務担当理事が相当の剛腕でないとできません。偶然なことに、2人の理事と私は同じ年齢で、同じ年に同じ大学に入った関係もあって、3人とも以心伝心で仕事ことができました。そのチームプレーの結果なんです。仕事はやはり組織です。1999年に市ヶ谷に国際文化学部、人間環境学部、翌年には多摩に現代福祉学部、小金井に情報科学部を設置しましたが、申請書類を作るだけでも膨大な作業が伴います。職員の力が大きかったですね。

新設の4学部が新しいカルチャーと 学内競争をもたらす

吉武 同時期に市ヶ谷に27階建てのボアソナード・タワーを竣工させていますね。

清成 ここは敷地が狭いですから、都心回帰なども考えると上に伸ばすしかないんですよ。法学部、文学部、経営学部などは多摩移転に反対して市ヶ谷に残ったんですが、そのころから高層化は検討されていました。その計画が手間取っているうちに、幸いにも価格がすく下がり、非常に安く建設することができました。

吉武 企業でも新しい事業部をつくり、ニーズの変化を捉えながら業容を拡大していくことはありますが、一方で、スクラップ&ビルドをしながら古い組織を新しい組織に置き換えていくこともやらなければ生き残っていきません。日本の大学の改革を見ていると古い組織や体質をそのままにした上で、新しいものを加えていくことだけをやっているように感じることもあるのですが、それで大学は変わるのでしょうか。法政の場合、確かに学部新設などで大幅に志願者が増え、大学全体に勢いがついたように思いますが、体質を変えようという点ではどうですか。

清成 新しい学部をつくと外から人が入ってくるといっただけでなく、自分でも予想しなかった変化がありました。新しい学部は新しい発想でつくりますね。だから、学部長予定者にはリーダーシップに加えて、イノベーターであることが求められます。そういう人が自分の構想と自分のリーダーシップでカリキュラムを作り、人集めをしますよね。そうすると既存の学部とはコンセプトが全く異なるものになり、異なるタイプの学生が集まるようになる。ひと言でいえば新しいカルチャーが大学の中に生まれるんです。既存の6学部に新しい4学部が加

わる訳ですから、大学全体に与えるインパクトは決して小さくない。それから、既存の学部と部分的に競争が起こります。例えば第一教養部の改組・転換で国際文化学部ができると文学部は危機意識を持ち、新しい学科をつくろうとします。経済学部も国際経済学科をつくって競争する。多摩キャンパスに現代福祉学部ができると社会学部の福祉分野と一部競合する。社会学部も新たなことをやろうとします。カルチャーの変化と学内に競争が起こる、この2つの効果はちょっと想定していませんでした。

吉武 さらに、2003年にはキャリアデザイン学部を設置していますね。

清成 そのころになるとカルチャーの変化や競争喚起という効果があることがわかっていましたから、キャリアデザイン学部には既存の大学にはいないタイプの教員を集めるなど、さらに思い切ったことをやりました。新しい学部が増えることで教員の構成もずいぶんと多様化しました。出身大学ひとつとっても純血主義はよくないですよ。法政も評論家の大宅壮一氏に東大の植民地などと評されたこともありましたが、今はかなり変わってきました。



よし たけ ひろみち
吉武 博通 大学研究センター長

1977年4月 新日本製鐵株式会社入社

1991年7月 // 総務部組織室長

1997年7月 // 総務部総務・組織GL

2000年7月 // 光製鉄所総務部長

2003年4月 筑波大学社会学系教授

2004年4月 // 学長特別補佐

2006年4月 // 理事・副学長

2009年4月 // 大学研究センター長

リクルート社の隔月刊誌「カレッジマネジメント」で『大学を強くする』の連載を担当

2割の賛成を得れば 思うことの8割はできる

吉武 4学部設置の時の話に戻りますが、国公立を問わず教養部の改組・転換はどの大学も苦労があったと聞いています。全くの白地に新しい学部をつくるのと違い、ご苦労もより大きかったんじゃないでしょうか。

清成 合意形成には数年間を要しましたし、ソフトランディングで人をどこに配置するかということについても気を遣いました。幸いにも新しい学部は、いい学部長に恵まれたと思っています。

吉武 清成先生は、学内外を問わず、また学術・文化・経済など多方面にわたり、本当に多くの人を知っておられ、それぞれの人の持ち味をよく把握しておられます。総長や理事長という大学トップの要件の一つに、学内外を問わず幅広く人を知っていること、人の能力や持ち味を見抜くことがあるのではないかと、あらためて感じますが、新設学部の学部長などはどうやって決めるのですか。

清成 新設のときは準備委員会を立ち上げますが、その委員長に学部長になってもらいます。その委員長は総長・理事長である自分が実質的に決めますが、学内者であろうと学外者であろうと衆目の一致する人をお願いするようにしています。

吉武 当然のことかもしれませんが、学内の合意形成をとても大切にしておられますね。

清成 合意形成のやり方についてはずいぶん学びました。その結果得たことですが、2割の教員の賛成を得れば、思うことの8割はできる、というのが私の実感です。だから無理して大勢に迎合することはないんですよ。教員の中では流れに沿ってついていこうという人たちが多数派ですから。それに大学行政を好きな人はそんなにいませんから。

吉武 大学行政が嫌いだった清成先生が結局、総長・



理事長を3期9年間務められることになりましたね。

清成 3期目は対抗馬もいませんでした。法政では初めてのことです。2期6年やって引退するつもりだったのが、支持者が許してくれず、あと1期だけやることになってしまいました。家内は反対しましたが(笑)。

学内における人材の発掘と 多様な職員の活用が鍵

吉武 大学を経営できる人材をどう発掘し、どう育てるかは日本の大学の将来にとって極めて重要な課題です。そういう問題意識もお持ちになって、清成先生は国公立の枠を超えて大学トップマネジメント会議を立ち上げられ、私も及ばずながら協力させていただいています。この問題をどうお考えですか。

清成 難しい問題ですが、トップにふさわしい資質をもった人材が学内に必ずいるはずですよ。そういった逸材をどう見つけ、どのようにして引っ張り出すかということなんですけどね。研究は好きだけど行政は絶対嫌だという人に無理強いはいできないし、やりたがる人もいますが、これもまた困るんですよ。

吉武 清成先生は、組織で仕事をした、職員の力が大きかった、ということを何度も繰り返されましたが、私もこれからの大学は職員が支えていかなければならないということを事あるごとに強調し、講演や雑誌の連載なども述べてきました。このことについて、清成先生はどのように考えられていますか。

清成 かつては大学の職員になりたいという人はそれほど多くなく、自分の大学に対するロイヤルティーの高い体育会系の人たちを採ったというのが自然の流れでした。しかし、かなり前から大学のあり方も変わってきたし、私が総長のときは思い切って経験者の中途採用をやりました。いい人がずいぶん採れ、出身大学も多様になりますよね。職員も純血主義より多様な方がいいということですよ。中途採用者の中にはシンクタンクから法政に移った筑波大学の卒業生がいますが、中堅の職員として活躍しています。

国立大学の役割をもっと明確に示すべき

吉武 そういう話を伺うと嬉しいですね。ところで、先生はかつて国立大学とのイコール・フットイング論について述べられておりますが、現時点で国立と私立の関係についてどのようにお考えですか。

清成 イコール・フットイング論というのは競争を平等にやるというだけの話であって、何でも同じにしると言っている訳ではないんです。国立大学には国立大学としての

固有の使命があるというのであればイコール・フットイング論というのはナンセンスなんです。国立大学の法人化の時に報告書が出ましたよね。その草案のもう一つ前の草案に、「国立大学に固有の使命・役割」という表現があったんです。それで文部科学省のある人に「それは具体的にはどういうものなのか」と尋ねたんです。その人はしばらく考えて、「そう言われてみればありませんね。相対的なものです」と答えました。同じようなことをある国立大学の学長に尋ねてみると、その学長は「一般的には、基礎研究、地域貢献、経済的困窮学生に対する教育機会の提供の3つといわれています」と解説してくれました。でも、基礎研究は国が資金を投入するのであれば、国立じゃなくてもいい訳だし、地域貢献だって相対的なもので、経済的困窮学生に対しては奨学金制度がある。3つともすべて絶対的な理由にならないんですよ。だから国が国立大学の役割をもっとはっきりと示すべきではないか、それを怠ってきたんじゃないか、そう思っているんです。

吉武 私は国立大学で仕事をさせてもらっていますし、国立大学が国立大学であり続けるべきであることを主張してきた一人ですが、確かにそうやって問われると全ての理由は相対的なものかもしれません。ただ、絶対的か相対的かという点だけで国立という設置形態の是非が議論されていいのでしょうか。

清成 明治の初めのように高等教育のインフラが全く欠けていた時に、旧帝国大学をつくる、旧制高校をつくる、師範学校をつくるというのは国策として当然だったと思います。だけど、戦後の経済の高成長を終え、成熟段階に入った現在において、なんでも国立ではないでしょうかとってくる訳です。現実の資源配分というのはポジティブ・フィードバック現象で、既に投資がなされていて人も設備も揃っているところに追加的に資金を投入すれば、財政資金は効率的に活用されますよね。だけどそれを続けていけば格差が減茶苦茶に広がり、しばらくしてみたら全体構造が非常に不健全になってしまわないか。だからどこかで調整する必要があると考えている訳です。

高等教育の充実に関する国民のコンセンサスが不可欠

吉武 先生は国立と私立の関係で論じられましたが、国立大学の間にもその現象はあり、格差が急速に拡大しているという感覚は多くの国立大学の学長にもあるように思います。

清成 だからこそ、全体構造を見た場合の健全性とは何なのかという議論をしておく必要があります。それから、文部科学省が予算を削っているという言い方をする人が

いるけれども、削っているのは財務省であり、それは国民の中にコンセンサスができていないからなんです。それに対して、GDPに対する高等教育予算の比率の低さを理由に増額を主張することが多いんですが、各国で経済構造が違うんだからあまり意味のある論拠ではないように思います。私は学生一人当たりの財政支出を計算してみたのですが、日本は確かに低い方

ですが、国立大学だけを取り出してみると先進国の下の方には入っており、そんなにひどい状況じゃない。さらに国立大学の中にも格差があり、東大はもらい過ぎということになるんです。それじゃあ私学助成だけ増やせばいいかというと、私立にも様々な大学があり、ガバナンスを含む経営の健全性や教育研究の質に疑問を感じざるを得ないところも少なくありません。私立についてはむしろ問題の大学が増えてきているように思います。かつては、国公私立大学は設置形態に関係なく一つのコミュニティーであり、大学とは何かについての共通理解があったのですが、規制緩和もあり、今はそれもなくなりつつあります。そのような現状をそのままにしてのイコール・フットイング論はナンセンスなんです。

筑波は旧帝大に伍す総合大学、特徴をより明確にすべき

吉武 最後に、筑波大学に対する清成先生の印象と期待をお聞かせ下さい。

清成 国立大学の中で旧帝大に伍していけるのは、単科では東工大や一橋、総合大学では筑波大と神戸大ということになるのではないのでしょうか。世間一般の筑波大学を見る目は力のある総合大学ということであることは間違いありません。けどどこに特徴があるのかが必ずしも見えませんね。日本一とか世界レベルと堂々といえる分野を育て、それを明確にすることが大切だと思います。それだけの底力があると世間は思っているのですから。

吉武 そのような期待に応えていかなければなりませんね。これまで何度もお会いしながら、聞くことのできなかったお話を今日は聞かせていただきました。本当にありがとうございました。



平成21年度 予算について

平成21年度は、国全体としての厳しい財政事情を背景に、これまでよりも一層の経費節減、効果的・効率的な執行が求められています。中期目標を着実に達成し、次期中期目標に向けた準備を進める重要な年です。平成21年度の学内予算については、

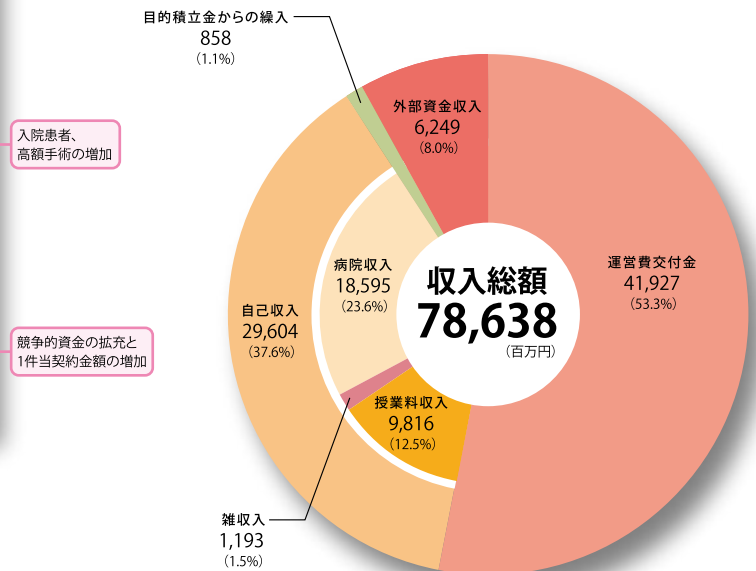
- ◆電子ジャーナル、移転費等の全学的観点から措置すべき基盤を原則として本部で確保
- ◆学長のリーダーシップの強化等に必要重点及び戦略的経費を増額
- ◆研究科等における教育研究を高度化・充実化するための実質的予算を増額

するなど、戦略的・緊急的諸課題に対応するとともに、多様かつ自立的な教育研究活動を支える、基盤的経費を確保しました。

収入予算

事項	平成20年度	平成21年度	増減
運営費交付金	45,703	41,927	△3,776
自己収入	27,705	29,604	1,899
授業料等収入	9,688	9,816	128
雑収入	825	1,193	368
附属病院等収入	17,192	18,595	1,403
目的積立金からの繰入	666	858	192
施設整備費補助金	168	—	—
国立大学財務・経営センター施設費補助金	168	—	—
外部資金収入	4,693	6,249	1,556
合計	79,103	78,638	△465

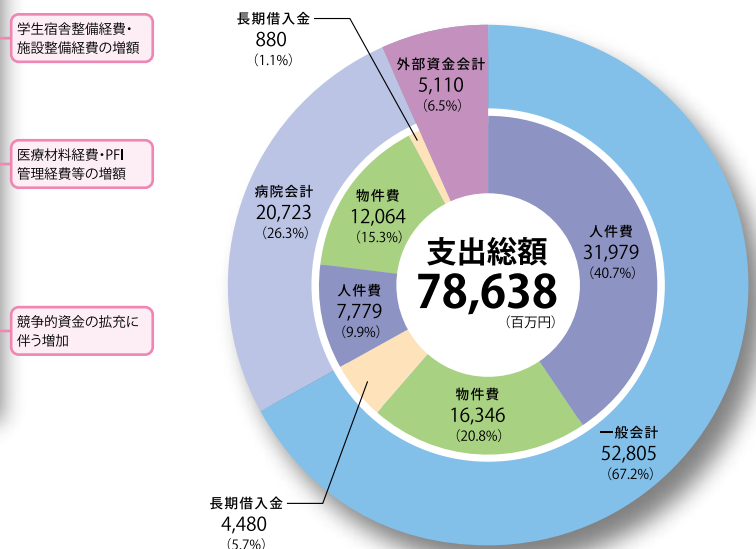
(単位:百万円)



支出予算

事項	平成20年度	平成21年度	増減
一般会計	56,073	52,805	△3,268
人件費	33,345	31,979	△1,366
物件費	14,479	16,346	1,867
施設費	336	—	—
長期借入金	7,913	4,480	△3,433
病院会計	19,428	20,723	1,295
人件費	7,333	7,779	446
物件費	11,034	12,064	1,030
長期借入金	1,061	880	△181
外部資金会計	3,602	5,110	1,508
合計	79,103	78,638	△465

(単位:百万円)



平成21年度 予算のトピックス

教育研究

- 教育研究環境の改善を進めるための経費を増額し、教育活動の充実を図ります(6億円)
- 海外拠点の一層の活用を図るなど、大学の国際化を図ります(2億円)



授業風景



附属中・高等学校



留学生との懇談会

省エネ・エコ対策

- 省エネルギー機器や省エネルギーモデル化事業等により、全学的な地球温暖化対策を積極的に進めます(2億円)



照明器具の更新



施設改修に伴う機器更新

学生支援

- 資金運用益等を活用し、学生支援の充実を図ります(1億円)
- 学生宿舎の充実・整備については、抜本的な対策を講じます(調整中)



スチューデントプラザ



学生宿舎の整備



学生支援の充実

施設改修

- 教育研究の基盤である電力設備の更新や、学生からの提案を生かした環境整備などを進めます(5億円)



リニューアルされた学生食堂



工事風景

農林技術センター

筑波大学キャンパスの北エリアに39.75%の広大な面積を持つ「農林技術センター」は、1973年の本学開学時に、教育と研究を通して農林技術の発展に寄与することを目的に、国内初の農林統合施設として設置されました。弦間洋センター長のもと、▽教育研究推進部▽農林生産技術部▽事務部の3部門で構成され、さまざまな教育、研究、実習を行っています。本学の学生や教職員のほか、他校や地域の人たちにも利用されています。



センターほ場で田植えの実習

■教育・研究のフィールドや憩いの場

同センターは、生物資源学類の学生を対象に水田、畑作、野菜、花、果樹、畜産、農業機械、樹木に関する実習を実施しています。他にも卒業研究、総合科目、附属坂戸高校生等の実習の場として、フィールドを開放しています。

筑波地区以外に長野県の八ヶ岳山麓地帯に八ヶ岳・川上演習林(282.25%)と静岡県の大井川上流地帯に井川演習林(1762.26%)を保有しています。両演習林は植生がそれぞれ違い、森林や水流の適切な環境や形態、景観、また野性動物の保護などに配慮しながら、森林や動植物の研究や学習、野外調査のフィールドとして活用されています。

厳しい自然環境の八ヶ岳演習林では、夏期に生物資源学類や附属坂戸高校の実習を実施するなど教育も行っています。

井川演習林は平均斜度が38~40度、ほぼ全域にわたる急傾斜地です。森林育成や流域管理に努めています。

筑波地区にある植物見本園では国内産樹木を中心に植栽・育成をし、植物や森林の専門分野の教育や研究にフィールドを提供しています。四季折々の植物の変化を観

察しながら散策できる“憩いの場”としても、教職員や学生、地域の人たちに利用されています。

■重要プロジェクトの社会貢献

同センターが力を入れているひとつが社会貢献プロジェクトです。地域交流や普及活動の強化・推進を図り、近隣地域と連携し、食や緑・環境などについて広く社会・地域と交流し、技術普及するための企画や支援を行っています。

◇食と緑の地域連携プログラム

本学が初めて「現代GP」^{※1}を取得した取り組み「食と緑のマイスター育成講座」は、市民公開講座も展開し、学生をインターンシップで参加させるなど、社会貢献や教育改善を図ってきました。中でも「雑穀を用いた食育」は、同センターの作物生産技術班を中心に、つくば市内の小学校で雑穀を栽培から収穫、食べるまでを学習しています。地域ボランティアが雑穀を用いた調理実習用レシピを開発するなど、地域と連携し技術普及を行っています。

ほかに「自家製チーズを楽しむ」講座も人気が高く、今年度の予定実施回数を増やしたほどです。

◇サクラソウ 里親制度の推進

同センターは、300品種以上のサクラソウを保有し、



雑穀を含む作物品種見本園を見学する小学生



センターに保存されているサクラソウは日本一の品種数を誇る

パスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



大人気のコメ



農林技術センター



八ヶ岳演習林



井川演習林での鹿の群れ



筑波地区(植物見本園)

日本一の品種数を保存しています。このサクラソウの遺伝資源保存活動として地域の人たちに株分けや栽培技術の指導を行う「サクラソウの里親制度」を実施しています。現在89人の里親が、203品種を栽培し保存しています。

毎年4月下旬には筑波実験植物園で「さくらそう展」を開催し、一般公開しています(今年は4/18~4/26)。

■環境への取り組み ISO14001を取得

2004年に国際規格である環境マネジメントシステムISO14001を取得しました。これは農学系附属施設として全国初の認証取得です。全国の農学系施設のモデルとして、環境に配慮した生物生産活動を行い、その成果を積極的に社会に還元しています。

■国際貢献

同センターは1979年にUNESCO(ユネスコ)のAPEID事業の協同センターに指定されて以来、国際交流活動の柱として「筑波アジア農業教育セミナー(TASAE)」が開催され、多大な成果をあげてきました。現在は「農学ESD」^{※2}に貢献することを重点項目に掲げています。

■安全で安心な生産物を提供

「まずは可能なところから農薬を減らしています」と坂井前センター長。

センターでは実践や実習で生産した農産物をセンター事務室で月、水、金の週3回、第1・3水曜日には附属病院でも移動販売しています。旬の新鮮な農産物を楽しみにしている常連客も多く、特にコメ、サツマイモ、トマト、ナシは

定評があります。

農産物の生産履歴を開示する青果ネットカタログ「SEICA」システムを活用し、消費者へ食の安心・安全の提供に努めています。

また、2006年5月からは附属病院の給食へ、農産物の提供を開始しました。農薬使用量が少なく、安全性の高い材料を使用した患者給食サービスで、これまでコメ、ジャガイモ、トマト、ダイコン、ブルーベリーを提供しています。

坂井前センター長は「農林技術センターのすべての活動が、地球規模の環境保全や向上のために役立つ、大きな使命だと考えています。これからも質の高い教育や研究を進め、国際交流や地域連携も深めていきたい」と話しています。

※1) 現代GP

文部科学省が、各大学・短大等の優れた教育改革の取り組みに対し、申請された取り組みを選定し財政支援する「現代的教育ニース取組支援プログラム」。

GPはGood Practiceの略。

※2) 農学ESD

「持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development(ESD))」



生産物にはSEICAシールが貼られる

「生徒が生徒を育てる学校」 筑波大学附属中学校



附小、附中、附高の大塚3校の次男

周辺には、お茶の水女子大学、跡見女子大学、拓殖大学等があり、地下鉄丸の内線「茗荷谷駅」、有楽町線「護国寺駅」から徒歩約5分のところに学校はあります。都心にながら、緑が多く、同じ敷地内には、筑波大学附属高校があり、運動場や体育館は共有で使用しています。

全校生徒615人(各学年5クラス205人)の男女共学で、そのうち65%の生徒は筑波大学附属小学校からの進学者です。生徒は都内や埼玉、千葉県から通学しています。

教育等に携わる教員は36人(非常勤講師5人含む)、事務職員3人です。

校則は生徒が作る

本校の特徴の1つは、「生徒が生徒を育てます」のキャッチフレーズのとおり、生徒会行事だけでなく、学校行事や普通の授業でも、生徒間のやりとりの中で、生徒が育てているところです。例えば、本校が定めた校則は、「附属学校の生徒であることを忘れずに、礼儀を常に重んじて行動する」、「掃除はよりよい環境を作るため、当番全員が全力を尽くして行う」の2カ条のみで、これ以外に学校が定めているものはありません。しかし、生徒たちは、細かい規則等を自らが決め、自主的に学校生活を送っています。学校行事についても、生徒会が主体となり教師とともに実施しています。

授業の主役は生徒

本校は、他の附属学校と同様に、全国の公立学校のモデル校として、開発的で、先進的な実験授業が各教科で実施されています。

英語教育では、教師は生徒への話しかけも指示も英語を使います。また、時にはクイズ形式で、生徒同士が主体的に英語を使う場面も演出します。

数学教育では、正解が出たら終わりではなく、答えを出すプロセスを重視します。解き方や疑問に思ったことを生徒たちが出し合うので、黒板は、正面、側面だけでは足りず、手作りの黒板が使用されることも多々あります。

国語教育では、書くことに力を入れており、中でも「文集づくり」は、生徒の作品をお互いに読み合い、批評し合いながら、書く力を伸ばしています。また、早くから聞き取りテストを取り入れたり、中学校ではほとんど行われない漢文の指導も盛んです。

その他の教科についても、実験や実技が多く、教師からの一方的な授業ではなく、生徒が不思議に思ったことや新しく予想されることなど、一人ひとりが考え、それをみんなで解き明かしていく授業を展開しています。

10年先の教育を目指して

角田陸男前副校長は、「各教科の先生は、10年先を見据えて、教育、研究に取り組んでおり、何事についても先進的に行っています。総合学習については、学習指導要領に盛り込まれる25年前から本校で実施していますし、今ではどこの学校でも行っている修学旅行を日本で最初に始めたのも附属中学校です。これからも、本校の伝統と歴史を引き継ぎ、生徒の力を借りつつ、より良い教育をめざしていく」と話しています。

れもそれぞれの分野で我が国の教育をリードしています。
カリキュラムに取り組んでいる筑波大学附属中学校を紹介します。



◆ある日の授業

先生：「憲法って何だろうね」
生徒：「国が決めた最高のきまりです」
生徒：「国の大原則を決めたものだと思います」
先生：「その『国』ってなんだろうか」
生徒：「国とは、えっと日本の国のことで……」
生徒：「この場合の国って、政府のことじゃないかな」
先生：「では、国が決めた最高のきまりを守るのは誰だろうか」
生徒：「それは国民です」
生徒：「政府が守る……？」
先生：「そのきまりを決めたのは誰だろうか」
生徒：「えらい人」
生徒：「国会議員かな」
先生：「では国会議員は誰が決めるのかな」
生徒：「それは国民です」
先生：「となると、国民が決めた国会議員により決まったきまりを国民が守っているということ？」
生徒：「うーん、そうかな。……何か変だな」
先生：「本当のところ、憲法ってなんだろうか。国って何だろうか。憲法は誰が決めて、誰が守るべきものなのだろうか」
附属中学校の授業は、教師が投げかけた課題に生徒が答え、ともに考え、追究して行っています。



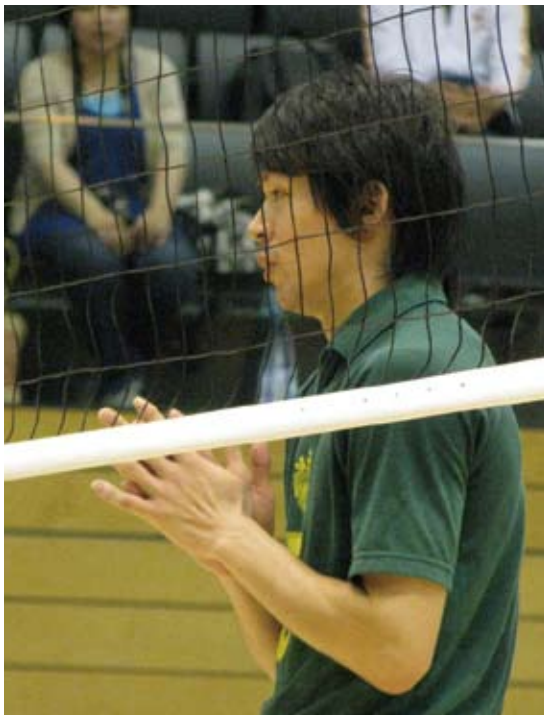
◆学びを高める「修学旅行」

修学旅行はその名のとおりに、「学を修める旅行」です。富士山の周辺をフィールドにして、教師が各コースの開拓に当たります。コースは毎年①文学、②産業、③自然、④勤労、⑤芸術の5コースです。生徒は希望のコースを選び、3カ月前からそれらのテーマに合わせて自主学習し、3泊4日の体験的学習に望みます。修学旅行中の宿舎やバスの中でも、互いの学習状況を話し合い、学校に戻ってからは、20枚以上のレポート提出が待っています。しかしながら、修学旅行を終えた生徒たちは皆、同様に「感動した」と言って帰ってきます。



第3回 男子バレーボール部

技能と精神磨き、王者復活へ



ブロックを担う篠村矩行選手



試合前に気合いを入れる監督と選手

大学男子バレーボール界の強豪「筑波大学男子バレーボール部」(都澤凡夫監督)。関東大学バレーボール連盟1部に所属し、全日本大学選手権大会は過去12年で8回(1997~2002、2004~2005)日本一に輝いている。OBには中垣内祐一(堺ブレイザーズ監督)や加藤陽一(JTサンダーズ)、石島雄介(堺ブレイザーズ)、山村宏太(サントリー)など、多くの日本代表選手も輩出している。

今年度チームで掲げたスローガンは『克己』。「小さい

ことでも吸収すべく、どんどん挑戦していく。己に勝つため、自分への挑戦です」とマネージャー兼務の濱田悠歩選手(体専4年)。

王者で知られる常勝チームも、昨年制したのはわずか1タイトルだけ。近年は勝つチーム作りに時間をかけてきた。今年は万全の体制で、“王者”復活を目指す。

主力メンバーが昨年とほぼ変わらないのは強みの1つ。個人力もアップした。

このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

男子バレーボール部 [日程]

■平成21年度春季関東大学リーグ戦1部
4/11~5/17 日本体育大学健志台米本記念体育館 他

女子バレーボール部 [日程]

■平成21年度春季関東大学リーグ戦1部
4/11~5/17 青山学院大学記念館 他

蹴球部 [日程]

■第83回関東大学サッカーリーグ戦1部【前期】
4/11~6/3 龍ヶ崎市陸上競技場たつこのフィールド 他

硬式野球部 [日程]

■首都大学野球春季リーグ1部
4/25~5/31 平塚球場 他



安井勇誠選手のジャンプサーブ

新主将のセンター・篠村矩行選手(体専4年)がチームをまとめる。身長190cm、最高到達点340cmはチーム1の高さを誇り、昨年のインカレではブロック賞を受賞した。両親も同部出身、本学進学に迷いはなかったという。「筑波大は基礎をしっかりと、選手の素材を生かした他にはない練習で、精神面も磨かれる。能力ある選手がそろい個人力もアップした。今年はこのメンバーと質の高いバレーをして、良い成績を残したい」と、意欲を語る。

セッターの富田周平選手(体専4年)は、的確なトスで攻撃をリードする。高校時代からアタッカーで活躍していたが、一昨年、セッターにコンバートされた。都澤監督は「チーム方針でセッターにしたが、なれないポジションで人一倍努力したんじゃないか。でも、それができる選手だから」と成長を見守った。

富田選手は「今では(セッターとアタッカー)両方の気持ち分かる貴重な経験をしたと思う。この収穫を全力でプレーに生かしたい」と自信をのぞかせる。

195cmのチームナンバーワンの長伸は、椿山竜介選手

(体専3年)。恵まれた体格は、相手チームにプレッシャーを与え、その鉄壁の守りはチームの信頼も厚い。「ブロックで負けたくない。より高いブロックを決めて、優勝をつかみたい」と、貪欲に練習に励む。

都澤監督の指導は「基礎技術を徹底的に」行うこと。「(同部は)強くなりたい人が来る場所。可能性は自分で切り開くもの。成功はあきらめない人の先にあるものだ」と、重要なのは基本とモチベーションだと強調する。「各自が目的意識を持ち練習に励んでいる。同時に必要なのは精神的な強さ。努力なくして成長はない。人間性も含め、成長を見守れるのはコーチングの醍醐味ですね」と、都澤監督は柔和な表情を見せる。

「大学バレーボールが盛り上がり、競技人口の底辺拡大にも繋がってくるはず。筑波大がリードして地域と一緒に力を育てないとね。筑波ネットワークが広がり、「筑波大発」の遺伝子が将来のバレーボール界をリードする日がくるかもしれない」と、まだまだ先を見据えている。

学内外からも“王者”復活にかかる期待は大きい。

まずは今年度最初のタイトル、春季関東大学リーグの奪還。5/17まで各会場で熱戦が続く。



王者復活を目指す男子バレーボール部

男子ハンドボール部 [日程]

■2009年関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦1部
4/11~5/15 日本大学 他

女子ハンドボール部 [日程]

■2009年関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦1部
4/18~5/17 日本女子体育大学 他

陸上部 [日程]

■第88回関東学生陸上競技対校選手権大会
5/16・17・23・24 国立競技場

剣道部 [日程]

■第55回関東学生剣道選手権大会
5/10 日本武道館

弓道部 [日程]

■第39回全関東学生弓道選手権大会
5/30・31 日本武道館

卓球部 [日程]

■平成21年度春季関東学生卓球リーグ戦1部
5/12~5/20 国立代々木競技場第二体育館

第3回 津軽三味線倶楽部 無絃塾 感謝込め、和の世界伝えたい



見事な撥さばきで圧巻のステージ(NHKホール)

津軽三味線倶楽部・無絃塾(蔡東生顧問)は、1994年に創部した。現在“塾生”は約60人で、“明るく、楽しく、元気よく”をモットーに、晴れのステージへ向け毎週月・水・土曜日に開学記念館で稽古に精をだしている。月に3回、阿見町在住の津軽三味線井坂流家元・井坂斗絲幸氏が「日本の伝統楽器を若者に伝えたい」との思いで、指導にあたっている。

主な活動は定例の発表会と、学内行事での演奏。指導者の井坂氏が主宰する「喜幸会」の発表会にも参加し、海外公演も行う。また三味線以外にも、和太鼓や舞踊、民謡などの伝統芸能も学ぶサークルだ。

執行部三役の役職は独特で、部長は頭かしら、副部長は若頭わかかしら、会計担当を勘定かんじょうと呼んでいる。

驚くのは、塾生ほぼ全員が三味線未経験で入部していること。

「入学式典が終わり会場を出たら、大学会館前の広場で紋付袴や振り袖姿の人たちが一堂に、三味線の演奏をしていたんです。その姿と迫力ある演奏に圧倒され、自分もやってみたい!と思い入部を決めました」と、入部動機を話す今期14代目・頭かしらの松永あい(人文学類3年)さん。

だが、全くの初心者にとって三味線を弾くのはたやすいものではなく、正しい姿勢や津軽三味線の特徴でもある力強い音を出せるようになるまでには、何カ月もかかるという。

同塾は楽譜を使わず、目と耳、手と心で覚える指導。背筋を伸ばして三味線を構え、右手に持つ撥ばちを絃に叩きつける。松永さんは「“パチーン!”と納得のいく“革にあたる”音が出せるようになるまでには、時間はかかりますが、先生が丁寧に指導して下さるし練習は楽しい」と笑顔を見せる。

同塾オリジナル曲「風の詩うた」は、4分間で“人生の風”を表現している。演奏には和太鼓も加わり、優しさと強さ両面を持つ同塾の代表曲として数々の舞台上で披露している。

塾生たちが常に心掛けているのが「感謝の気持ちを持つ」ことだ。松永さんは「三味線がやれるのも、ステージに立てることも、周りの人たちの支えや協力があったこと」といい、同塾の活動最大の見せ場である卒業公演(1月)は、毎年“感謝の心”をテーマに据え、磨かれた芸を披露している。立ち見客も出るほどの人気ぶりで、その



ダイナミックな太鼓演奏



華やかな振り袖姿で舞踊ステージ



こぶしが響きわたる民謡

ステージを見た多くの観客から「感動した」と評判が高い。

アットホームな雰囲気を持つ居心地の良さも同塾ならではの、代が変わり卒業後も演奏会に顔を出したり、後輩の指導や相談にのるなどしている。

「三味線は一生もの。稽古に終わりがないように、無絃塾に卒業なしです」松永さんは絆の深さを強調する。

近年は、三味線でポップス演奏や、異種楽器とのセッションでジャズの演奏、華々しくステージいっぱいによ

さこいソーランを舞うなど、従来の伝統芸能に創作意欲あふれる新しい試みも取り入れ、活動の場を広げている。

松永さんは「たくさんの人に私たちの演奏を知ってもらって、もっと大きなサークルになりたい」と目を輝かせる。

夢は無絃塾単独での東京ドーム公演。「感謝の気持ちを忘れずに、無絃塾がどんどん大きくなって止まることなく成長していけたら」と、塾生たちは今日も撥に魂を込める。

このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

新入生歓迎祭 4/7~5/31

各課外団体が様々なパフォーマンスで新歓アピール
 ・文化系サークル連合会
 ・芸術系サークル連合会

[場所] 学内

第16回天上大風 4/26

伝統的芸術系課外団体の発表会
 ・津軽三味線倶楽部無絃塾 ・鹿島神流武道部 ・邦楽部
 ・能・狂言研究会 ・ときめき太鼓塾

[開門] 12:15 [場所] 開学記念館

第25回つくば芸術祭 5/4~6

地域の方々との交流を目的とした芸術・文化系サークルが主催の一大イベント
 今年のテーマは【続く芸術、新たな春】

[場所] アイイモール前広場 他

第35回やどかり祭 5/29~30

学生宿舎に入居する学生が中心となったイベント
 模擬店や演奏、ゆかたコンテストなど盛りだくさんの内容

[場所] 平砂宿舎周辺

平成20年度卒業式・学位記授与式



記念撮影する学生たち

講堂での卒業式

平成20年度の学群・理療科教員養成施設の卒業式が3月25日午前10時から、大学院学位記授与式が同午後1時20分から、それぞれ大学会館講堂で行われました。

卒業者数は、学群2,325人、理療科教員養成施設21人、大学院学位記授与者数は、博士課程318人（論文博士30人を含む）、修士課程373人、博士前期課程1,149人、博士課程修士45人、専門職学位課程37人でした。



ロッテに入団した坪井選手（右から2人目）と仲間たち



卒業を祝う筑波大学応援団 WINS



岩崎学長から学位記を授与される学生

学生表彰

表彰後に記念撮影をする学生たち



卒業式、学位記授与式が行われた3月25日、総合交流会館で午後3時から、修学・研究活動や課外活動において優秀な成果・成績を修めた者を対象とする学生表彰が行われ、腰塚副学長から学群学生9人、大学院学生8人に賞状と記念品が贈られました。



北京オリンピック女子サッカーで活躍した安藤選手

学群	
氏名	所属・学年
牧野 美咲	理工学群 化学類 1年
木村 あかね	生命環境学群 生物資源学類 2年
倉井 克幸	第三学群 国際総合学類 4年
村田 雄一	第三学群 情報学類 4年
片山 太一	第三学群 工学システム学類 4年
安田 翔	第三学群 工学基礎学類 4年
秋元 希星	体育専門学群 4年
坪井 俊樹	体育専門学群 4年
久保 倫太郎	芸術専門学群 4年

大学院	
氏名	所属・学年
高木 功介	人文社会科学研究所 国際政治経済学専攻 一貫 3年
下重 直樹	人文社会科学研究所 歴史・人類学専攻 一貫 5年
石川 香	生命環境科学研究科 情報生物学専攻 後期 3年
八幡 穰	生命環境科学研究科 生物機能科学専攻 後期 3年
平林 丈嗣	システム情報工学研究所 知能機能システム専攻 後期 3年
成迫 健児	人間総合科学研究科 体育学専攻 前期 1年
福見 友子	人間総合科学研究科 体育学専攻 前期 1年
安藤 梢	人間総合科学研究科 体育科学専攻 後期 1年



柳澤 純 教授

[生命環境科学研究科、先端学際領域研究センター]

■柳澤純教授が第5回(平成20年度)日本学術振興会賞を受賞

柳澤純教授(生命環境科学研究科、先端学際領域研究センター)が平成20年度の日本学術振興会賞を受賞しました。同賞は、創造性に富み、優れた研究能力を有する45歳未満の若手研究者に対して顕彰するものです。

受賞の対象となったのは、「細胞のエネルギー恒常性を調節する分子機構の研究」で、同研究業績が学術上特に優れた成果を上げたと認められたものです。

また、この賞の受賞により、学長から表彰楯(写真)及び、研究支援経費が贈呈されました。

●主な受賞一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
平成20年度「安全保障に関する懸賞論文」 防衛大臣表彰 優秀賞	高木功介(人文社会科学研究所一貫制博士課程3年 国際政治経済学専攻)	波多野澄雄教授(人文社会科学研究所)
日本AEM学会第17回MAGDAコンファレンス 優秀講演ポスター賞	寺島亮実(システム情報工学研究科博士前期課程2年)	寺本徳郎教授(システム情報工学研究科構造 エネルギー工学専攻)、 鈴木隆之教授(同連携大学院(産業技術総合研究所 先進製造プロセス研究部門))
日本混相流学会 学生優秀講演賞	長谷川浩司(システム情報工学研究科修士課程2年)	阿部豊教授、金子(藤原)暁子講師
日本複合材料学会第33回複合材料シンポジウム 優秀学生賞	中田啓介(システム情報工学研究科博士前期課程2年)	松田哲也講師、河井昌道教授
2008地盤工学会関東支部研究発表会 優秀論文発表者賞	上田高生(システム情報工学研究科前期課程1年 構造エネルギー工学専攻)	山田恭央教授、松島亘志准教授
第43回地盤工学研究発表会 優秀論文発表者賞	豊田衛(システム情報工学研究科博士前期課程2年 構造エネルギー工学専攻)	山田恭央教授、松島亘志准教授
(財)明治安田厚生事業団 第25回健康医学研究助成に採択	中田由夫助教(人間総合科学研究科疾患制御医学専攻、 次世代医療研究開発・教育統合センター)	
第1回日本肥満症治療学会学術集会特別企画 「わが病院、わが職場の肥満症対策チーム」 創意工夫賞	中田由夫助教(人間総合科学研究科疾患制御医学専攻、 次世代医療研究開発・教育統合センター)	
第67回日本公衆衛生学会総会 優秀ポスター賞	水野智美(近畿大学准教授) 徳田克己教授 西館有紗(富山大学講師(ヒューマン・ケア科学専攻修了)) 石上智美(日本医療科学大学講師(ヒューマン・ケア科学専攻修了)) 安心院朗子(ヒューマン・ケア科学専攻2年) 西村実穂(ヒューマン・ケア科学専攻2年)	徳田克己教授 (人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻 研究グループ)
日本地域学会 第1回優秀発表賞	間晶晶(博士前期課程環境科学専攻2年) 小林誠(博士前期課程環境科学専攻2年) 植野甲史郎(博士前期課程環境科学専攻1年)	氷鉤揚二郎教授
平成20年度高松宮妃癌研究基金研究助成金に採択	坪井康次教授(陽子線医学利用研究センター) 石川栄一講師(脳神経外科講師)	
2008年度応用物理学学会結晶工学分科会 発表奨励賞	塚原真也(数理物質科学研究科博士後期課程)	小島誠治教授(数理物質科学研究科)
第67回日本公衆衛生学会総会 優秀ポスター賞	深作貴子(ヒューマン・ケア科学専攻1年)	柳久子(人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学 専攻)研究室
第8回日本ミトコンドリア学会年会 第1回学会賞 The J-mit Award for Life Sciences	石川香(生命環境科学研究科博士後期課程3年)	林純一教授
2009年のPascal Rol Award	黒川和博技術補佐員(数理物質科学研究科電子・ 物理学専攻 Computational Optics Group)	
乙卯研究所 フッ素化学研究奨励賞	瀧辺耕平講師(数理物質科学研究科)	
平成20年度 公益信託臨床検査医学研究振興基金を授与	竹越一博准教授(疾患制御医学分子検査医学:臨床医学系)	

平成21年度入学式



入学式で祝辞を述べる山田信博新学長

平成21年度の学群・理療科教員養成施設の入学式が4月7日、第1回が午前9時30分、第2回が同11時30分、大学院入学式が同午後2時15分から、それぞれ大学会館講堂で行われました。

入学者数は、学群2,430人(編入学155人を含む)、理療科教員養成施設20人、大学院2,412人(修士・博士前期課程1,829人、5年一貫制博士課程156人、博士後期課程387人、専門職学位課程40人)です。



世界中で大ヒットしているポケットモンスター。
そのポケモン関連事業を統括している(株)ポケモンの社長・
石原恒和さん(大学院芸術学研究科・83年修了)に、
ポケモン誕生のエピソードや大学の思い出などを伺いました。

いし はら つね かず
石原 恒和さん
株式会社ポケモン(代表取締役社長)



—芸術専門学群・芸術学研究科で学ばれましたが、当時の印象深かったことをお聞かせ下さい

私は2期生で、当時まだ学内や筑波研究学園都市は建築途上にあり、伝統と歴史ある他校とは全く正反対のフロンティア的な現場に立ち合ってきたという印象を持っています。ルールも整理されておらず、教える側も教わる側も模索しながら幅広く挑戦する雰囲気があった。そのカオスのような混沌的とした状況の中で学べたことは重要な経験になっています。

—コピーライター・糸井重里さんの会社「エイブ」の副社長に就任し、ゲームプロデューサーを務められましたが、本学で学んだことがクリエイティブな仕事へ生かされることはありましたか

計算センターでコンピューターに絵を描かせたり、ビデオでいろいろな表現をした経験は、今の仕事に無関係のほうではないです。もともと私は総合造形コースで芸術表現をしていて、たとえばカラスグチを使って1ミリの間に数本の線を引く技術や精度、そんなアートの技術的な側面の部分を修練・鍛練して学んでいまし

た。そのプロセスの一方で、機械の方が得意な作業は機械にやらせればいいということコンピューターを通して知りました。人間より正確に線を引くなど、機械にできる作業は機械に任せ、自分はアートの技術的な側面ではなく、もっと本質的な側面を見たい、極めたい、感じたいと思うようになりました。

プロデュースの仕事をする時も、機械と人の知恵が生み出すことを分けて考えるようになった。だから大学で学んだことは当然この世界につながっているはずで

—ポケットモンスター(以下ポケモン)をプロデュースし全世界でヒットさせました。ヒットに至るまでの苦労話やエピソードがあればお聞かせ下さい

一番の苦労は、とにかく作り上げるのに時間がかかったことです。91年に作り始め、発売が96年。91年当時、任天堂ゲームボーイは最新ゲーム機でしたが、95年になるともう時代が代わる。ハードウェアの寿命は長くても5年、通常は2~3年です。やっとできた結果が、時代遅れになってしまう不安もありました。それでも1つだけ自信があったのは、このソフトはこれまでにない面白いものであり、それはみんなが面白いと思うに違いないという確信があったことです。

—その確信について詳しくお聞かせ下さい

自分がプレーして面白いし、テストプレーしたみんなも面白いと言うゲームに仕上がっていたからです。とにかく





自分が楽しめることが一番です。今ごろ出しても売れないかもしれないと思うこともありました。でも意外と冷静で、このソフトが評価されず売れなかったら、世の中間違っているとさえ思うほどの自信がありました。その面白さをどう伝えるかが、広報でありPR。ありとあらゆる事をやり、その結果がヒットへとつながりました。

—現在、ポケモン関連事業を統括する(株)ポケモンの社長に就任されていますが、会社の戦略や特に重視していることをお聞かせ下さい

良いものを作るために時間がかかるのは仕方がないということ。作るものへのこだわりを最大に、面白さが伝わるまでやり続けることにこだわっています。だから完成が遅くとも、結果の質が高ければ盛り返し可能というか。納期内に仕上げ、PR計画をしっかり立てるのは大切だけれど、一番重要なのは商品が魅力的でそれをみんなが面白いと思うことです。“結構面白い”はいっぱいあるわけで、わざわざポケモンを選ぶ理由にはなりません。一番分かりやすいのは“一番面白い”ものを作るということではないので、簡単ではないけれど、ものづくりを妥協せずに追求し、作り続けることです。

—ご自身は経営者であり、クリエイターでもあるわけですね

もしポケモンが短期間の開発で売っていたら、“計画こそ重要”と、全く違った考えを持っていたかもしれません。手がけたポケモンソフトがたまたま本当に仕上げるのが大変で、かつ十分納得できるものができあがったから。運もあると思いますが、やっぱり商品のクオリティーにこだわり、子どもたちの心をとりにするということに関して、ずっと追及していきたいと思っています。

—ポケモンがここまで世界中から受け入れられる要因は？

テーマが良かったということがあるでしょう。たとえばゲームが日本の歴史や武士道の話であつたら、欧州の人たちにどこまで通用したか。

“ポケモン”というテーマが作り出した世界観は世界中の子どもたちが共通で受け入れ可能な遊びであつたというのは、強く感じることですね。

—ポケモンは今後どうなっていくのでしょうか

ポケモンの海外依存率は6~7割。日本と米国、欧州の比率は1:1:1くらいです。ポケモンはいくつかの軸を少しずつ増やしながらか、メディアや商品としての価値を高めてきた。今後どうなるかは、まだわからないけれど、想定とは全く違うところで何かが生まれる可能性はありますね。

子どもは飽きやすいから、面白いと言ってくれる状況をつくり続けるのは大変です。もう一回“面白い”って夢中になってくれるための仕掛けを提案し続けること、それが大切だと思っています。

—最後に本学と本学の学生に対してメッセージをお願いします

私の筑波大時代は自分の位置を自分でちゃんと決めないと、ものが定まらず漂流してしまうような、そんなカオスの状況でしたが、それを楽しんでいた。もう何十年も前だけれど今も共通して言えるのは、自分の位置を決めて動く、それをやるのは自分しかないということ。筑波大は私にとって、自分の位置を確かめるのにとても重要な場所だったと思う。位置が定まっていればきっと、いろんな良い方向につながっていくと思います。

でも今、当時のものさしで話しても“浦島太郎みたいなことを言って”と言われちゃうかな。“時代が古すぎますよ”ってね(笑)。



プロフィール

- 1957年 三重県鳥羽市生まれ
- 1980年 筑波大学芸術専門学群卒業
- 1983年 // 大学院芸術学研究科修了
- 1995年 株式会社クレーチャーズ設立 代表取締役社長兼プロデューサー就任
- 1998年 ポケモンセンター株式会社設立 代表取締役社長就任
- 2000年 株式会社ポケモン(ポケモンセンター株式会社より社名変更) 代表取締役社長就任・CEO就任
- 2008年 株式会社クレーチャーズ 代表取締役会長就任、現職に

リレー エッセイ

人間総合科学研究科
疾患制御医学専攻（消化器外科）
講師

小田 竜也さん



千年以上の年月を経た大樹のみが「屋久杉」の名前を冠される。世界遺産に登録され伐採が規制された今でも、自然倒木が鹿児島島の営林所にあがる。棟梁が競り落としてくれた屋久杉は、年輪がきれいに渦をまき2メートルの銘木だった。江戸差物、御輿製造で現代の名工に選ばれている棟梁の工場に出入りして15年以上がたつ。月に1-2回、プロ用の工作機械を自由に使わせてもらって2年がかりでダイニングテーブルを作り上げた。2歳になる息子がマジックで落書きをしても、全く気にしない。小学校にあがるころにはカンナでひと削りして、1000本の年輪の意味を教えてやろうと思う。

今回は、人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻（産婦人科学）
准教授 沖明典さんです。
「大学時代からの25年以上のつきあいになる敬愛する友人です。
見かけによらず(?) 蘭の花を愛する心優しい面が女性に大人気」

病院総務部総務課

柴 貞重さん



目下、はまっているのは、ゴルフとネコです。スポーツ大好きで、当時は(いつのころかはご想像におまかせします…)体専の学生より、体育施設を使用しているといわれるほど、就業と就寝時間の外はさまざまなスポーツに費やしていましたが、その弊害からか、からだのあちこちにガタがきてしまい、今は、ゴルフを少々にとどめています。ネコは、縁あって今年の11月から我が家の一員となっていますが、とにかくかわいい!! 転がしたゴルフボールにじゃれつく様子はう〜んたまりません。癒されます。

今回は、体育芸術系支援室 山田涼子さんです。
「とても気が利くしっかりした方で、私より年下なのですが何かとお世話になってまいります」

附属大塚特別支援学校
副校長

神田 基史さん



教員養成学部時代の4年次に米国ミシガン大学に1年国費留学させてもらいました。大学のバイク用駐輪場はホンダ、ヤマハ、カワサキ、スズキが並びハーレーはほんの数台でした。これがきっかけで帰国後オートバイ免許を取得しました。一人用テントを積んでのひなびた温泉地を巡るツーリングが趣味となりました。今はナナハンでの通勤のみです。そのかわりというわけではありませんが、この2月からカヤック・フィッシングを始めました。船橋の三番瀬や三浦半島の和田長浜などに浮かぶ週末が楽しみです。スズキなどを狙うルアーでの釣りが好きですが、魚種によってはエサ釣りもします。

今回は、附属坂戸高等学校教諭の平田佳弘さんです。
「高校総体剣道の優勝者です。最近めでたいことがあったそう…」

人間総合科学研究科
疾患制御医学専攻（脳神経外科）
講師

中井 啓さん



吹奏楽部や軽音楽同好会、モダンジャズ研究会を経て、現在は全く音楽活動ままならず、10数年が経過してしまいました。いつか再開しようとコシタンタンと狙っています。推理小説や空想科学小説の類を好きでよく読みます。当直のときに対応が遅い時は……。運転(峠)も好きでしたが、2ドアが4ドアになり、チャイルドシートがつき、最近を送迎主体。最近もっとも力を入れているのは子どもの朝ごはんづくりと、木工を主体とした庭の整備です。ウッドデッキと、フェンスを造作しました。短期目標は芝生の庭で、夢はピザ釜の設置です。

今回は、医学系支援室 技術職員の宮川牧子さんです。
「基礎実験のときには、いつもお世話になっています。実験やデータ整理の時に大変頼りになる力強い味方です」

人間総合科学研究科
芸術専攻
教授

蓮見 孝さん



「血圧が高い、運動をしろ」と医者に言われた。ほこりをかぶっていた小径タイヤの自転車を引っぱり出して近所を一回りしたら、とても壮快。走行距離や平均時速がわかるサイクルメーターを付けたら、俄然ヤル気になってきた。祝日の今日も、ミスマッチなヘルメットとゴーグル姿で、牛久沼、小貝川、利根川、新利根川あたりをグルッと一回りし、80kmほど走った。自転車は、健康によいだけでなく、メカいじり、ルート選び、カフェ巡りなど、様々な楽しみがあり、定年後も楽しめそうだ。車にはね飛ばされないように、安全第一で。

今回は、システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻教授の松田紀之さんです。「企業から大学にやって来た私に、研究の心得をイチから伝授してくれた大恩人です」

総務部総合事務センター

細田 厚司さん



「健康のため歩いてみませんか」でお馴染みの方もいると思いますが、職員サークル歩こう会の世話人をしています。年のせいかこのごろ、歩くのに変化があって、休日には月に1回程、空き缶等のゴミを拾いながら歩いたり、雑草や花木を鑑賞し、下手な句を考えたりして歩くのを楽しんでいます。最近、私と同年齢ぐらいの壮年や婦人が朝早くからTXつくば駅を降り立ちリュックを背に筑波山や学園遊歩道を歩く光景を見かけ、きっと都会で忙しく過ごした皆さんが歩く楽しさを再発見したのかと思うと、同じ歩く仲間として微笑ましい限りです。

今回は、人間総合科学研究科 生命システム医学専攻講師(産業医)笹原信一朗さんです。「産業医としていつもご指導を頂いている先生です。現在、子育て奮闘中だそうです」

学術情報メディアセンター
講師

佐藤 聡さん



私の最近の趣味といえば、小学生のサッカーの審判活動だ。3人いる息子たちと共通の話題をとって、何がいかと考えると、まずは資格を取得してみた。それから3年がたち、まだまだ上手な審判はできないが、週末に子どもたちと一緒に体を動かしていい汗をかくのは気分がいい。それに同じフィールド内という、これ以上がない特等席で成長している子どものプレーを観戦できるのが楽しい。また通勤路ですれ違う子どもたちから挨拶をもらえるようになりちょっとうれしい。審判活動を通じてお父さん友達が增えるのもいいものだ。

今回は、総務部人事課の植田尚美さんです。「植田さんとは、筑波大学管弦楽団と一緒に演奏していました」

システム情報工学等支援室

佐藤 君江さん



「ハングルは3日で覚えられるよ」という留学生の甘い言葉に誘われて始めてはみたものの、確かに2日で読めるようにはなったけれど全く意味不明！時は折しもヨン様ブームの嵐が吹き荒れる直前のことでした。教え方が良かったのか♪♪で毎日お勉強。今もくたびれ果てた脳みそに指令を送り細々と続けていますが、間違っても通訳なんて頼まないでくださいね。実力の程がバレちゃいますので。ただし、ソウルのおいしいお店情報にはちょっと自信が。年長者を敬う精神が心地良く感じられ、何より韓食の味に魅せられて3泊4日の超短期留学は複数回。私の生活に潤いを与えてくれたJ嬢に感謝ハムニダ！

今回は、附属聴覚特別支援学校の林朋美さんです。「学類・研究科OGで、今は職員として活躍の林さんはすごい年齢差ありの友人です」

本学関係の主な新聞記事掲載一覧(1月～3月)

	記事	掲載本学関係者	掲載紙名
1	▽花まる先生:附属小学校・白石範孝	白石範孝教諭(附属小学校)	朝日(1/10)
2	コメ本位制地域通貨「マイル」	早川公(本学大学院生)	産経(1/16) 毎日(1/20) 読売(1/25) 朝日(2/5)
3	本学と東京理科大が協力協定 共同推進などで連携	岩崎洋一(学長)	朝日(1/21) 毎日(1/21) 日経(1/21) 産経(1/21) 東京(1/21) 茨城(1/21) 常陽(1/21)
4	本学研究グループが、タンパク質の働き再現する高精度の新手法を開発	館野賢准教授(数理物質科学研究科)	茨城(1/21) 日経(1/21)
5	本学の研究チームが肝硬変の新治療法を開発、臨床研究を開始	大河内信弘教授(人間総合科学研究科)	日経(1/22)
6	大子町と本学連携の健康づくりプロジェクトがスタート	田中喜代次教授(人間総合科学研究科)	茨城(1/24)
7	▽22世紀ビジネス:「藻」(ボトリオコッカス)からバイオ燃料製造	渡邊信教授(生命環境科学研究科)	ビジネスアイ(1/26) 毎日(2/2)
8	茗溪学園高校の「17歳の卒論」、本学大会会館で発表会 「個人課題研究」発表に本学教授陣が指導も	伊藤純郎教授(人文社会科学研究科)	産経(1/28)
9	「岩田洋夫・博士の異常な創作」作品展開催 東京・日本科学未来館で5/11まで	岩田洋夫教授(システム情報工学研究科)	朝日(1/29)
10	「体操伝習所創設130周年記念展」 本学ギャラリーで3/31まで	大熊広明教授(人間総合科学研究科)	産経(1/30)
11	本学が小学5・6年と中学生対象に生物学者育成へ特待コース「BSリーグ」開設 2期生を募集		常陽(1/30) 朝日(2/13) 産経(2/19) 茨城(2/23)
12	▽開発の現場 挑戦の軌跡:日経優秀製品賞 最優秀賞 サイバーデザインのロボットスーツ「HAL」	山海嘉之教授 (システム情報工学研究科、サイバーデザイン社長)	日経(2/5)
13	国公立大の二次試験最終志願状況 本学4.4倍 全国4.6倍		朝日(2/5) 毎日(2/5) 読売(2/5) 東京(2/5) 茨城(2/5) 常陽(2/5)
14	本学附属病院の建設・管理、民間委託 国立大附属病院では全国初のPFI(民間資金を活用した社会資本整備)契約	山田信博(附属病院長) 岩崎洋一(学長)	朝日(2/6) 毎日(2/6) 読売(2/6) 日経(2/6) 東京(2/6) 茨城(2/6) 常陽(2/6) 産経(2/17)
15	つくばリカセイキ(つくば市)が本学と千葉工大の「移動ロボット研究所」と 連携で、布ベルト用自走計測ロボを共同開発	油田信一教授(システム情報工学研究科)	日刊工業(2/7)
16	乳がん抑制たんぱく質を本学研究グループが発見 増殖・転移同時に予防も	柳澤純教授 (生命環境科学研究科、先端学際領域研究センター)	読売(2/9) 毎日(2/10) 日経(2/10) 茨城(2/10) 日刊工業(2/10) ビジネスアイ(2/20)
17	本学とタイのアジア工科大間で、衛星「きずな」を通じ遠隔講義がスタート 10日からマレーシアのマルチメディア大も接続、3/17まで8講座を予定	北脇信彦学群長(社会・国際学群) 首藤素子教授(人文社会科学研究科) 蔡唯平(国際総合学類4年)	朝日(2/10) 毎日(2/10) 読売(2/10) 日経(2/10) 東京(2/10) 茨城(2/10) 常陽(2/10) 日経産業(2/10)
18	つくば市教委が09年度からチューター制度導入 教員目指す本学生を市立全14校に派遣し補習授業		毎日(2/11) 産経(3/3)
19	つくば市内の7公園に「健康遊具」設置へ 本学生による無料介護予防教室も検討		毎日(2/14)
20	茨城イメージアップ大賞授賞	山海嘉之教授 (システム情報工学研究科、サイバーデザイン社長)	茨城(2/18)
21	ほめられる子は思いやり育つ 赤ちゃん400人調査で初の証明	安梅勅江教授(人間総合科学研究科)	読売(2/28)
22	本学の研究チームがアオコの猛毒分解で微生物の働き方解明	杉浦則夫教授(生命環境科学研究科)	日経(3/2)
23	県が医師確保対策で本学と連携 新年度から地域枠も新設	前野哲博教授(人間総合科学研究科)	朝日(3/6)
24	文化庁の芸術選奨受賞(舞踊部門)	平山素子准教授(人間総合科学研究科)	朝日(3/7) 東京(3/7)
25	本学と農業者大学校が新年度から授業公開で協定 施設、設備の利用も可		茨城(3/12)
26	駐車場の植樹でCO2削減を 本学の「つくばエコシティ推進グループ」がケヤキ9本植樹で効果期待	つくばエコシティ推進グループ 井上勲教授(エコシティ推進グループ長、学長特別補佐) 藤巻晴行講師(生命環境科学研究科)	朝日(3/13) 茨城(3/14)
27	人とロボット共存 つくばをモデルに「推進会議」が提言	油田信一教授(システム情報工学研究科)	朝日(3/14)
28	大子町が本学とつくば市と連携で、町有林でCO2相殺へ	蓮見孝教授(人間総合科学研究科)	日経(3/17)
29	学内のエコ活動「つくばエコシティ推進グループ賞」の第1回最優秀賞に3Eカフェ プロジェクトチーム	3ECaféプロジェクトチーム 熊谷現(生命環境科学研究科環境科学専攻1年) CAPCAP298(学生団体) 藤井太郎(社会学類2年) システム情報工学研究科都市交通研究室	茨城(3/24)
30	本学附属病院の臨床教育組織「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター」 が開所式 水戸協同病院内に来月設置	山田信博(附属病院長) 岩崎洋一(学長)	毎日(3/25) 読売(3/25) 日経(3/25) 産経(3/25) 茨城(3/25) 常陽(3/25)
31	本学と東大共同でヤジロベエなどバランス玩具のデザインツールを開発	三谷純講師(システム情報工学研究科)	日刊工業(3/31)

イベントカレンダー(4月～6月)

4月

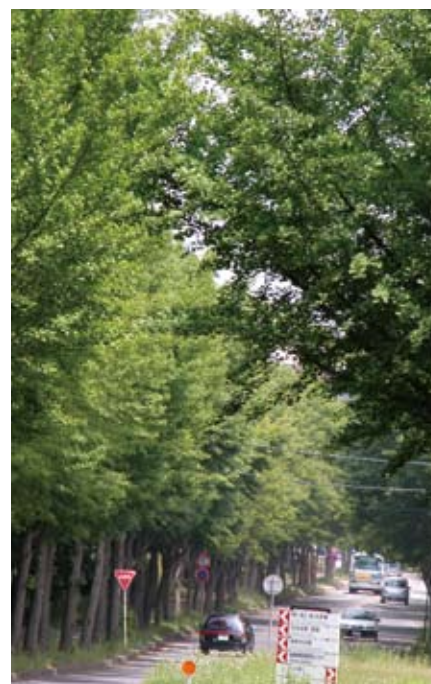
- 1日(水) 春季休業(～4/6)
- 4日(土) 東京キャンパス大学院入学式・新入生オリエンテーション
- 6日(月) 2C・D棟、3B棟リニューアルオープンセレモニー
附属桐が丘特別支援学校入学式
- 7日(火) 入学式
新入生歓迎祭
附属久里浜特別支援学校入学式
- 8日(水) 新入生オリエンテーション(4/8～9)
附属小学校入学式
附属中学校入学式
附属視覚特別支援学校入学式
- 9日(木) 附属駒場中学校入学式
附属高等学校入学式
附属駒場高等学校入学式
附属坂戸高等学校入学式
附属聴覚特別支援学校入学式
- 10日(金) 第1学期授業開始
附属大塚特別支援学校入学式
- 13日(月) 情報学群現代GP特別講義
- 19日(日) 外国人留学生のためのバザー
- 26日(日) 第16回天上大風～開学、満開

5月

- 4日(月) 第25回つくば芸術祭(5/4～6)
- 9日(土) 数理物質科学研究科オープンキャンパス
- 23日(土) 春季スポーツ・デー(5/23～24)
数理物質科学研究科物質・材料工学専攻
学生募集説明会
- 29日(金) 宿舍祭(やどかり祭)前夜祭
- 30日(土) 宿舍祭(やどかり祭)本祭

6月

- 24日(水) 第1学期授業終了
- 25日(木) 第1学期期末試験(6/25～7/1)



Tsukuba Communications

vol.3

平成21年4月発行

編集・発行：筑波大学広報室

住 所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電 話：029-853-2063

E-mail：kohositu@un.tsukuba.ac.jp



「総合研究棟D」

大学院の改組再編に伴い、異分野を横断的に統合した、人間総合科学研究科の新専攻の研究スペース及びプロジェクト研究等に、弾力的に利用できる全学共同利用スペースとして、新時代の研究環境の実現を目指し、平成16年に建設されたものです。

